

乗鞍岳の火山活動解説資料（令和8年1月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1）

乗鞍高原監視カメラ（乗鞍岳の東北東約7km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

- ・地震活動（図2-①、図3）

21日と23日に、乗鞍岳の南1～2km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。21日12時56分に発生したマグニチュード（M）2.7（暫定値）の地震により高山市で震度2を観測したほか、21日と23日に高山市で震度1を観測する地震が1回ずつ発生しました。この地震活動に伴い噴気などは観測されず、傾斜計等に変化はなく、火山活動の活発化は認められません。

火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図2-②～⑦、図4、図5）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 乗鞍岳 山頂部の状況（1月18日、乗鞍高原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています。

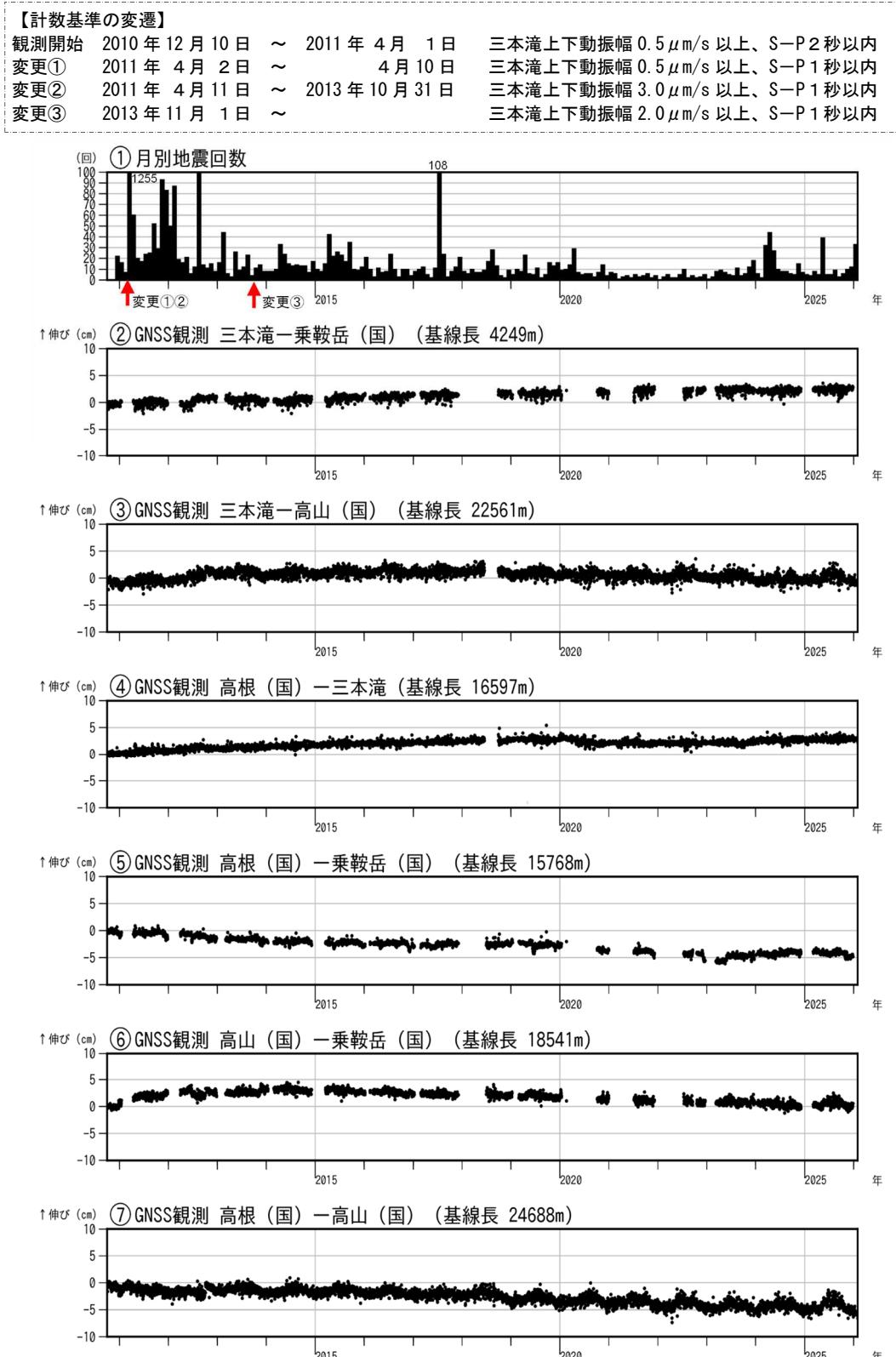


図2 乗鞍岳 火山活動経過図（2010年10月1日～2026年1月31日）

①乗鞍岳周辺の月別地震回数（2010年12月10日計数開始）

②～⑦ GNSS連続観測による基線長変化 （国）：国土地理院

②～⑦は図5のGNSS基線②～⑦に対応しています。②～⑦のグラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・21日と23日に、乗鞍岳の南1～2km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動に伴い噴気などは観測されず、傾斜計等に変化はなく、火山活動の活発化は認められません。

・GNSS観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

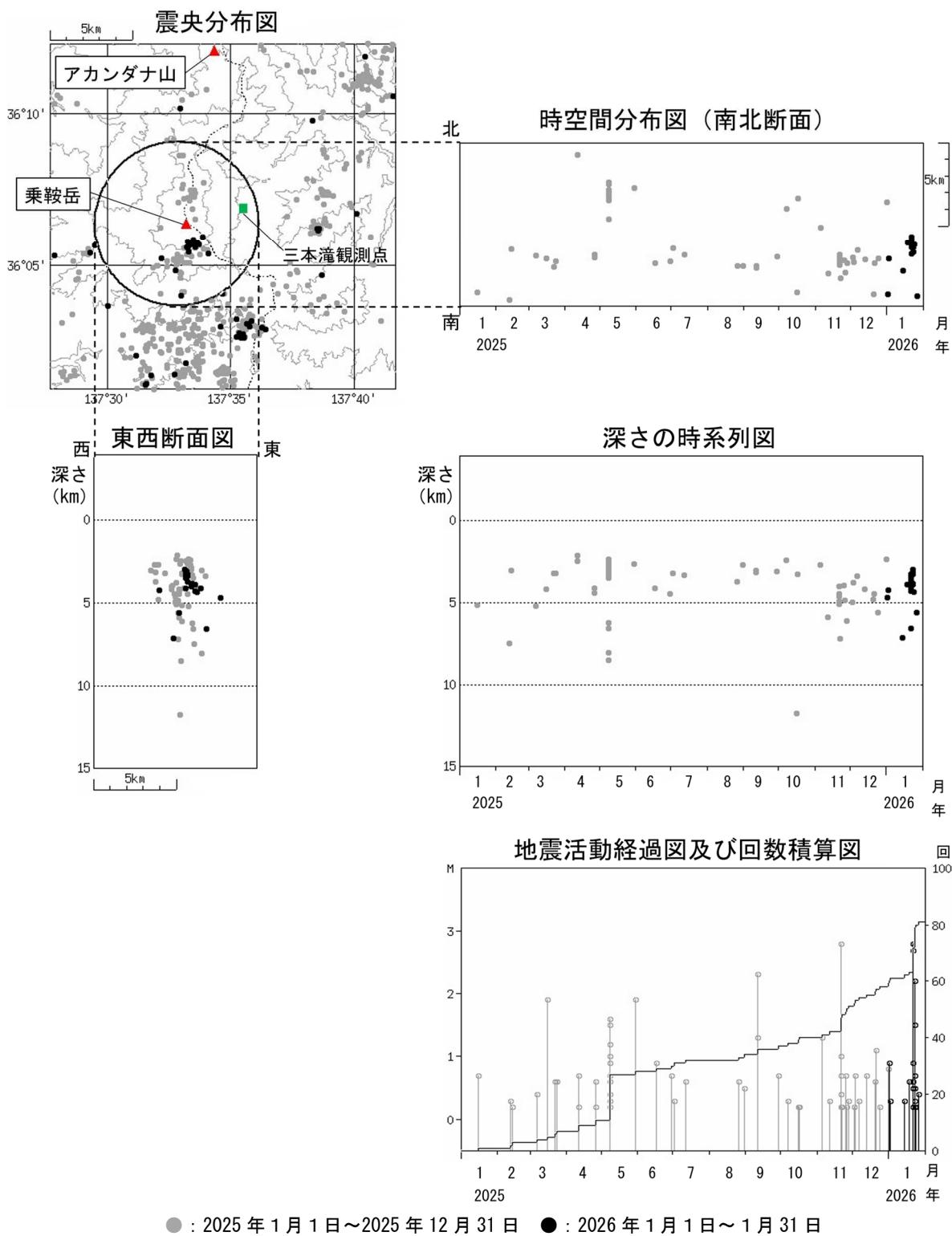


図3 乗鞍岳 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2025年1月1日～2026年1月31日)

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.2以上の地震を表示しています。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

東西断面図、時空間分布図、深さの時系列図、地震活動経過図及び回数積算図には、乗鞍岳付近（震央分布図中の黒線円の範囲）の地震を示しています。

- ・21日と23日に、乗鞍岳の南1～2km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。この地震活動に伴い噴気などは観測されず、傾斜計等に変化はなく、火山活動の活発化は認められません。

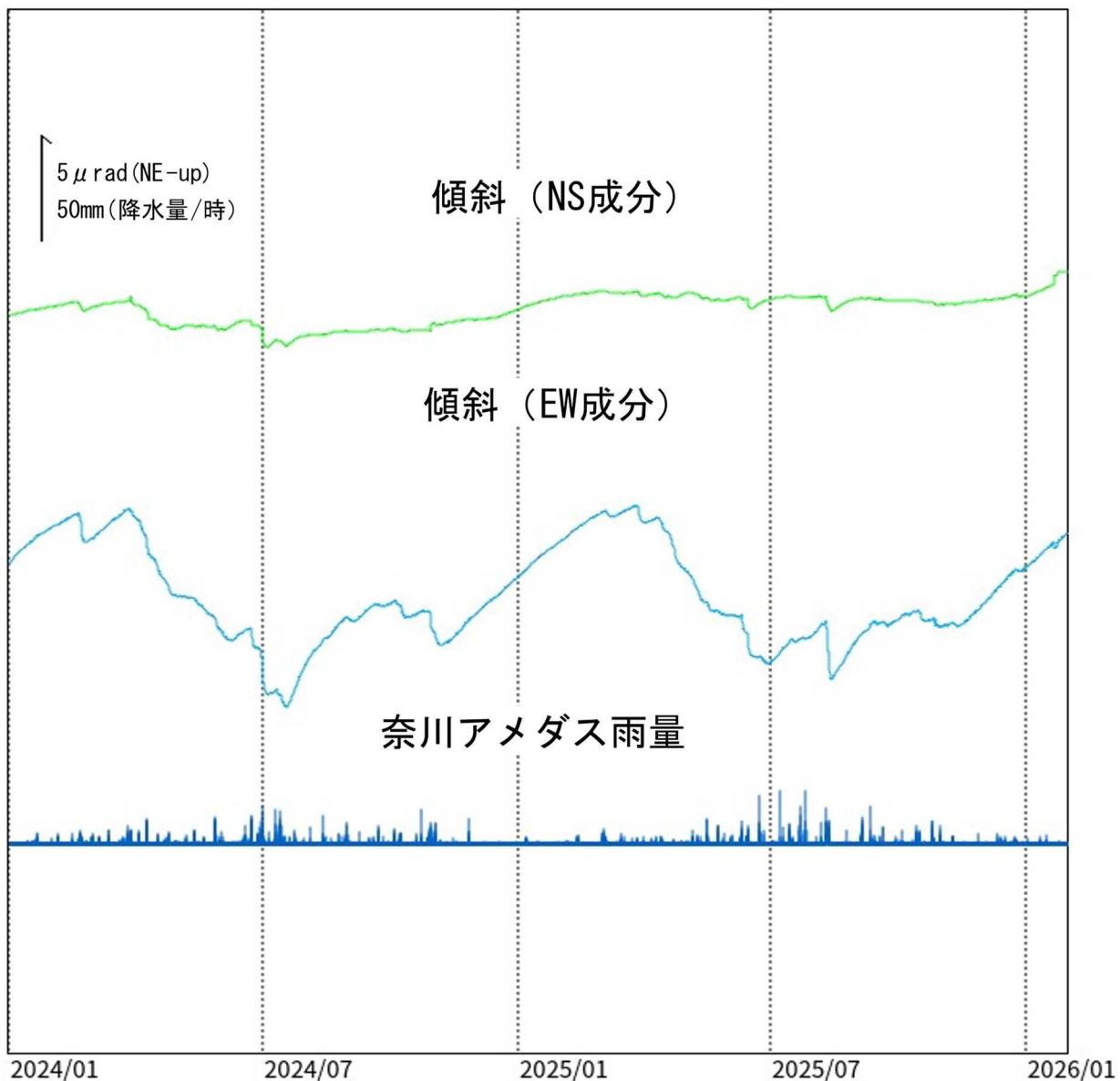
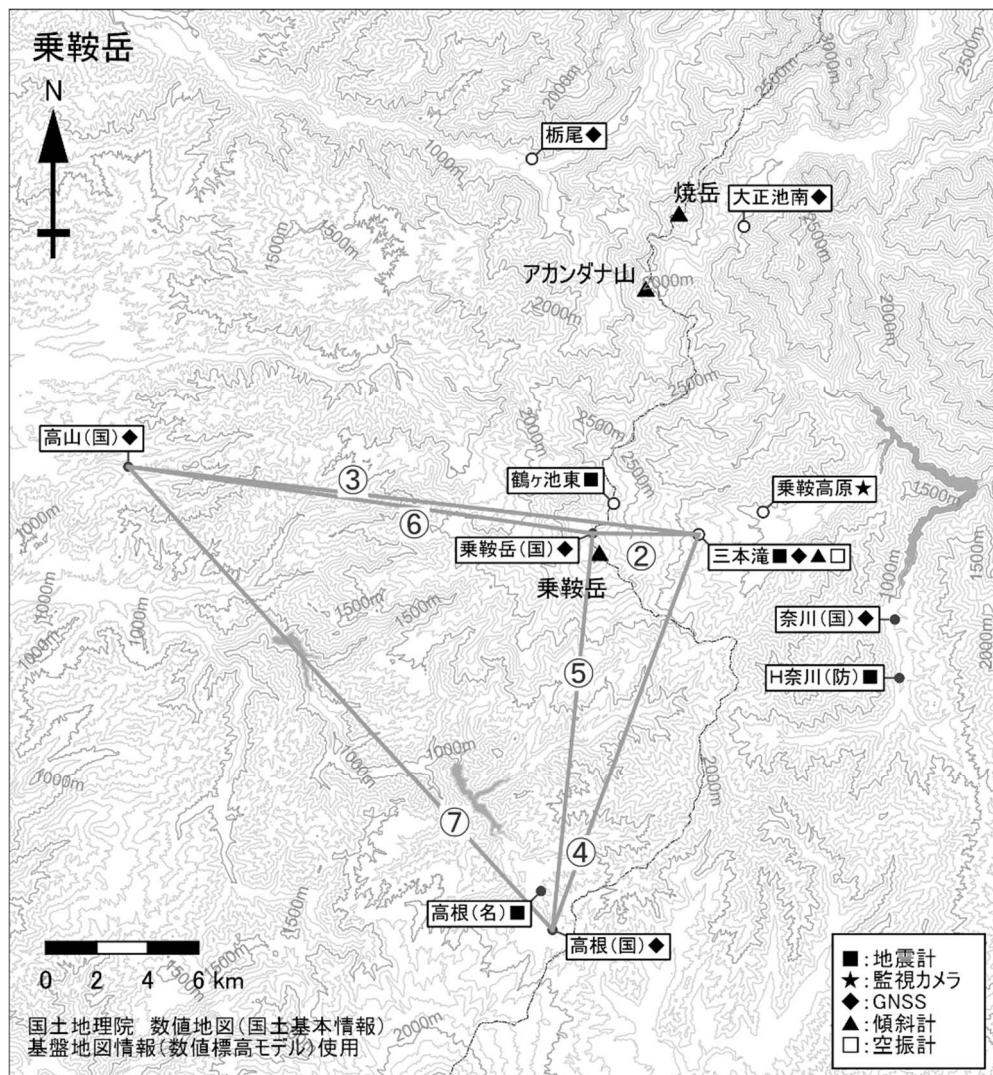


図4 乗鞍岳 三本滝観測点における傾斜データ（2024年1月1日～2026年1月31日）
・傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(名):名古屋大学

図5 乗鞍岳 観測点配置図
GNSS 基線②～⑦は図2の②～⑦に対応しています。